

福井県産【大麦・小麦】の
収量アップを目指して!!

フクムギ情報

JA福井県

8.12版

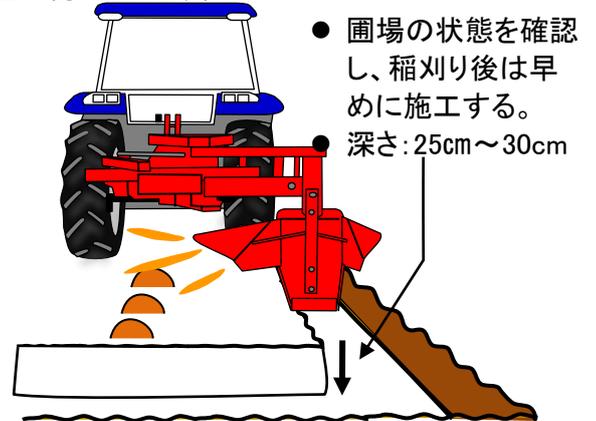
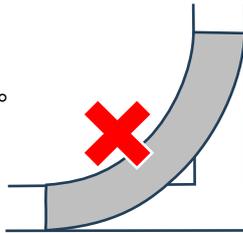
● 稲刈り直後からの排水対策！！（圃場準備が重要）

播種前の確実な排水対策が今後の大麦の生育、高収量を確保する第一歩です。稲刈り後、できるだけ早く圃場の排水対策を行い、良好な苗立ちを目指し、品質や収量向上に努めましょう。

1. 排水対策のポイント

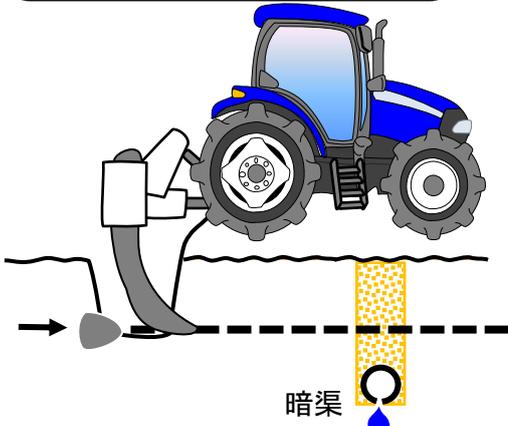
① 額縁排水

- 額縁排水溝は、水稻刈取後できるだけ早く行い、圃場の乾燥に努める。
- 角の部分は、リターン機能やスコップで必ず連結する。トレンチャの円形掘削は、機械故障の原因となるので行わない。



- 圃場の状態を確認し、稲刈り後は早めに施工する。
- 深さ：25cm～30cm

② 補助暗渠（サブソイラ施工）



- 額縁排水溝を掘った後、排水溝底から引くように施工する。
- サブソイラ補助暗渠は額縁排水溝設置後すぐに行い、額縁排水溝と連結し本暗渠と直交するように施工しましょう。

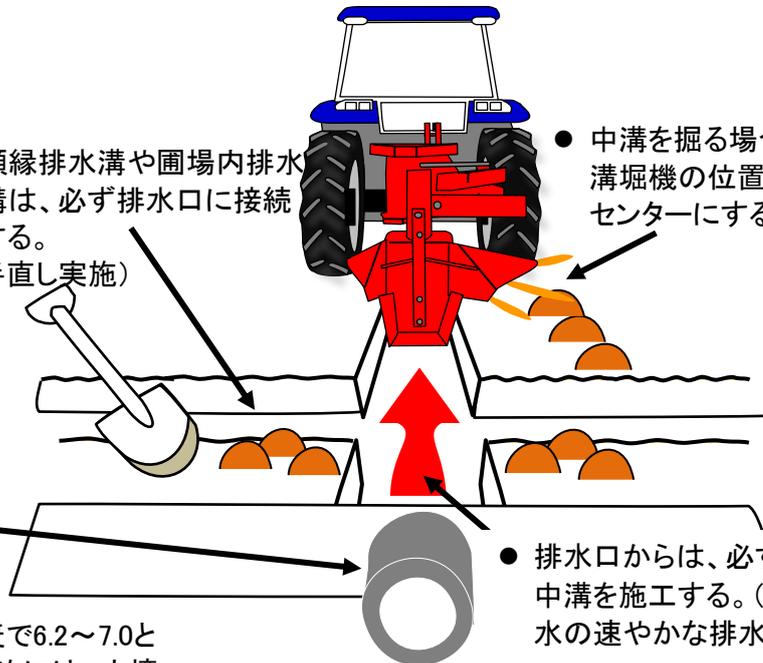
- 施工間隔：通常2～4m。排水が悪い圃場は、1.5～2mと狭くする。
- 施工深さ：25～30cm（額縁排水溝と同じ深さ）

③ 明渠（中溝の施工）

圃場内排水溝の施工

- 深さ：25～30cm。
- 中溝間隔：5～30m。圃場条件、麦の播種作業に応じて設定する。（排水が悪い圃場は、播種1往復の間隔で中溝を施工）
- 排水口の底面は、必ず額縁排水溝より下になるようにする。

- 額縁排水溝や圃場内排水溝は、必ず排水口に接続する。（手直し実施）
- 中溝を掘る場合は溝堀機の位置はセンターにする。



- 排水口からは、必ず中溝を施工する。（雨水の速やかな排水）

2. 土壌改良資材の散布

麦の好適な土壌pHは、小麦で6.2～6.9、大麦で6.2～7.0とされています。安定的に収量、品質を得るためには、土壌pH6.5を目標に土壌改良資材を施用しましょう。近年は、水稻・大麦ともに一発肥料の施用となっており、リン酸等の供給が減っております。積極的な土づくりをしましょう。

- 麦豆一番：60～80kg/10a
- ケイカル：200kg/10a+ようりん：40kg/10a